

3. 今後の渋滞対策

1. 国道1号安新歩道橋(実施主体:国交省)

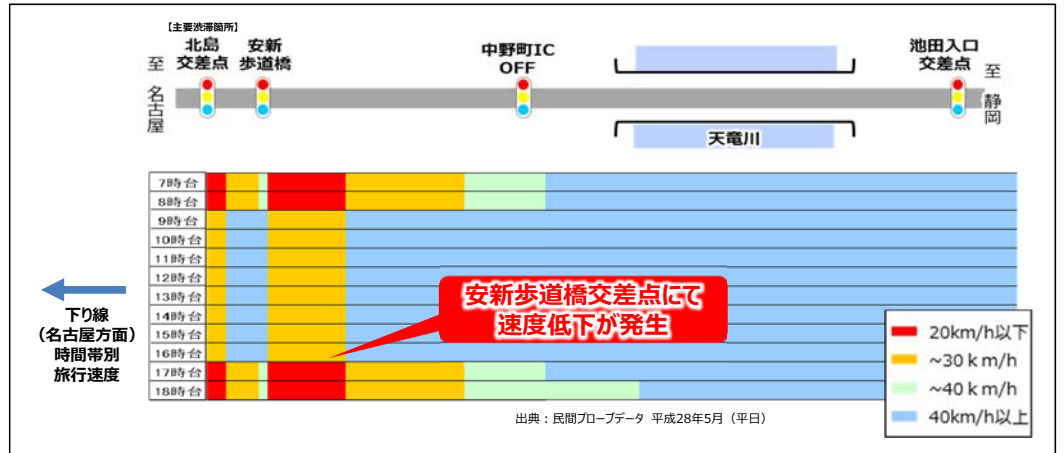
1-1 安新歩道橋の交通状況及び事業予定

- 安新歩道橋交差点では、西進交通（国道1号浜松バイパス方面への交通）による渋滞が発生
- 安新歩道橋交差点部で、速度低下や追突事故等による安全性の低下が課題
- 平成30年度より調査設計を実施し、国道1号方面レーンの2車線化について、今後は関係機関協議及び工事を進めていく

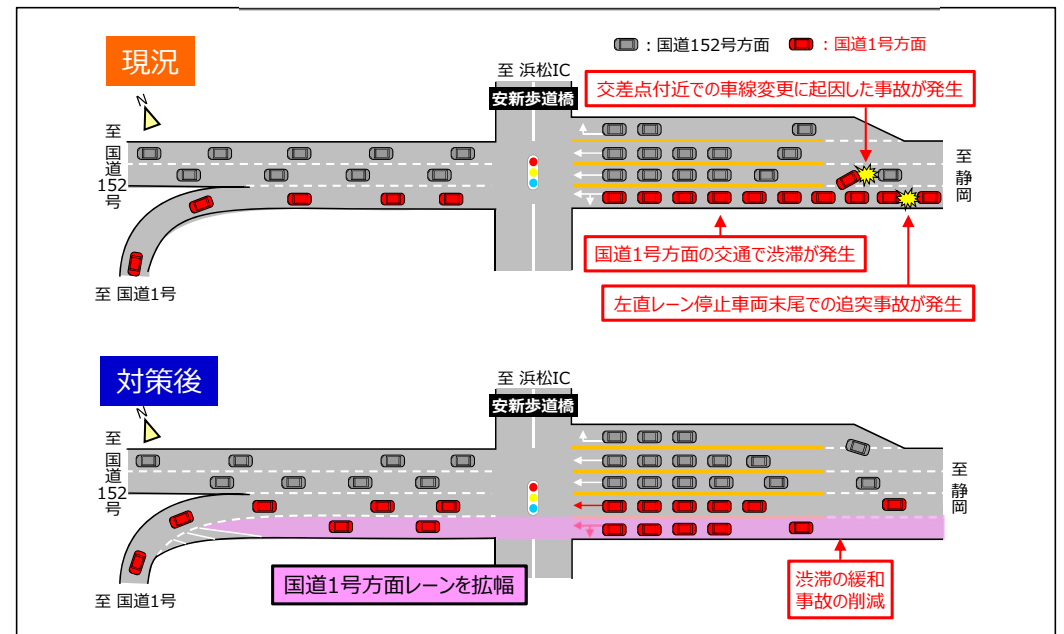
■ 対策位置



■ 現状の交通課題（速度状況）



■ 対策イメージ ※対策後の形状は現時点での設計案であり、今後関係機関協議を実施していく。

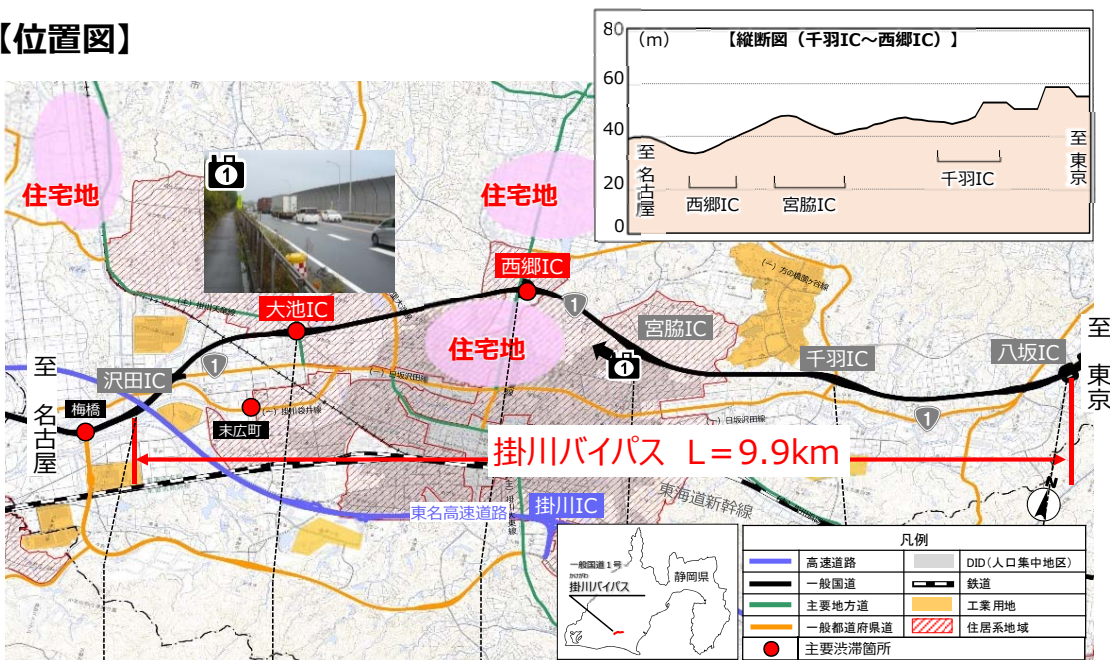


2. 掛川バイパス 西郷ICランプ改良(実施主体:国交省)

2-1 西郷ICランプの交通状況及び事業予定

- 国道1号掛川バイパスでは、下り線の西郷IC付近で交通集中・道路構造（加速車線長不足）による顕著な速度低下が発生
- 今年度より調査設計を実施し、西郷IC下りオンランプの改良による合流の円滑化を図り、渋滞緩和及び交通事故を防止

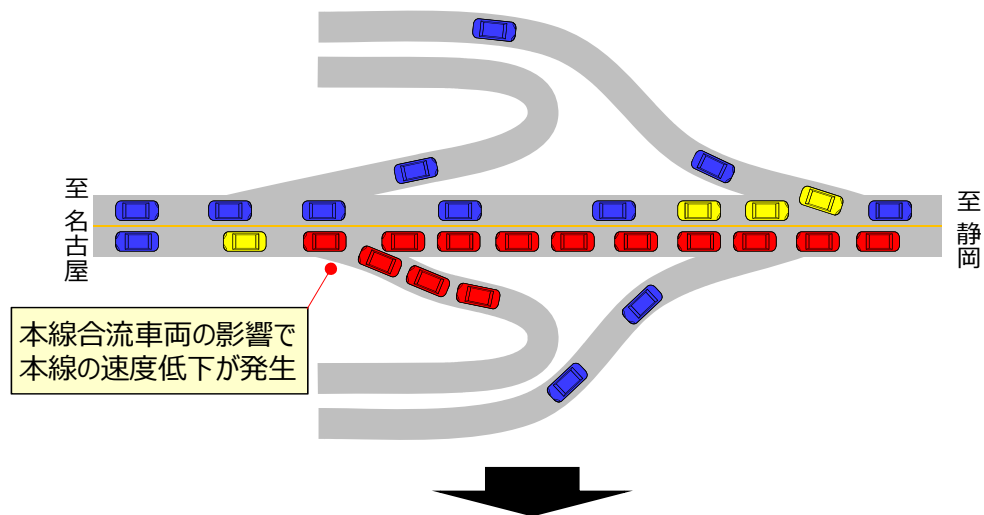
【位置図】



【対策】 西郷IC：下りオンランプ改良

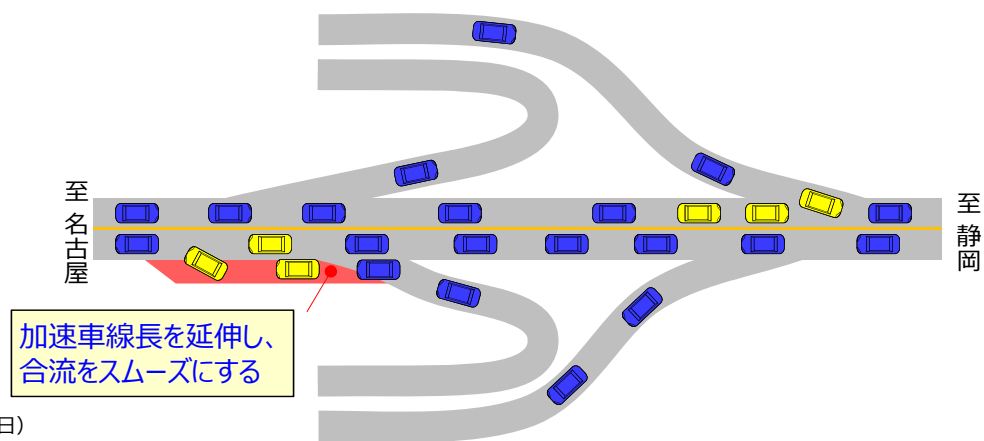
対策前

直進車両と下りオンランプからの合流車両の錯綜により急ブレーキが多発し、速度低下発生



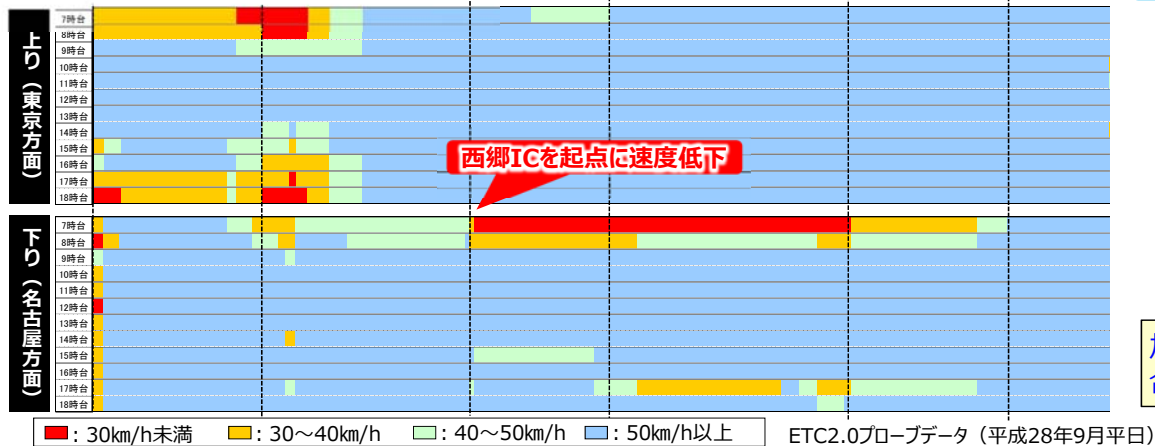
対策後

合流をスムーズに行えるよう、加速車線を延伸



【分析結果】

■ 時間帯別旅行速度（平日）



3. 長沼交差点（実施主体：静岡市・国）＜検討中＞

3-1 長沼交差点の交通状況

- 長沼交差点は、東西軸である新東名・国道1号静岡バイパス・東名・国道150号を接続する南北軸の（主）山脇大谷線と国道1号現道との交差点であること、長沼交差点西側の南北軸が分断されていることで、交通が集中
- 前回の協議会以降、東名日本平久能山スマートICが開通し、交差する（主）山脇大谷線等の交通状況は悪化傾向
- 日本平久能山スマートICの利活用推進により更なる悪化が懸念されるため、今後、要因分析、対策の必要性・方向性の具体化



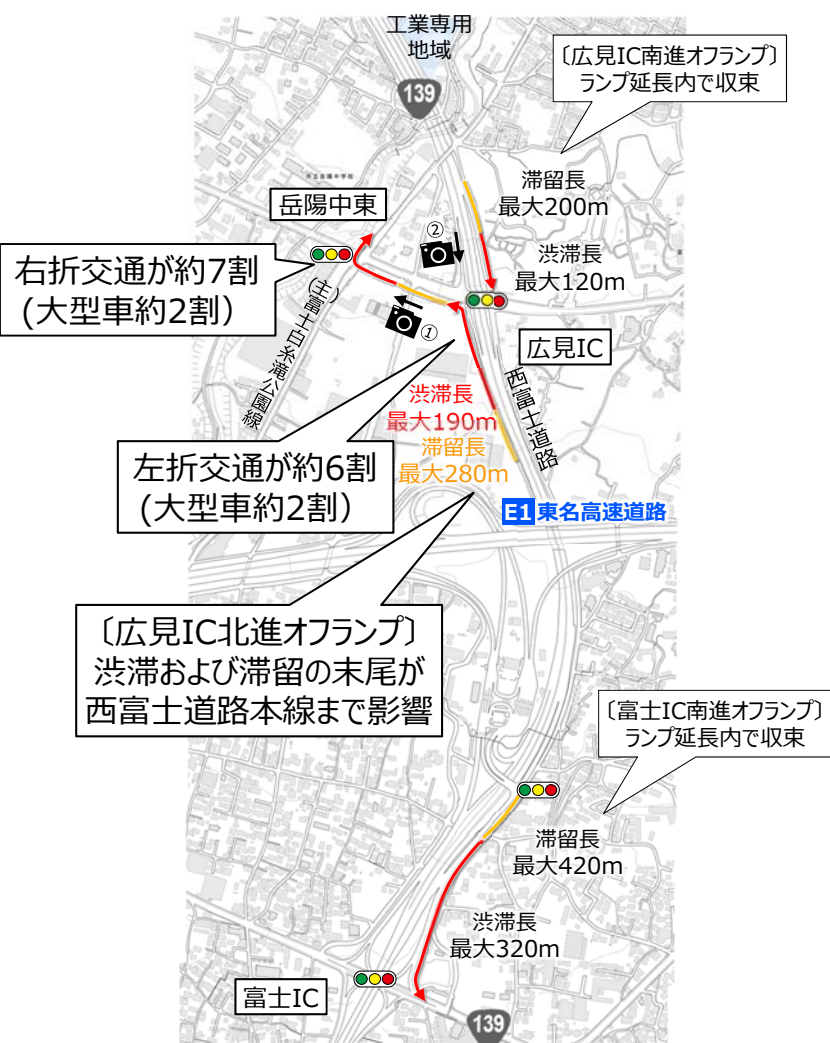
※交通量：令和元年10月17日(木)実態調査結果 16時台～18時台集計

※地図出典：国土交通省 国土地理院（道路ネットワークは令和元年10月時点）

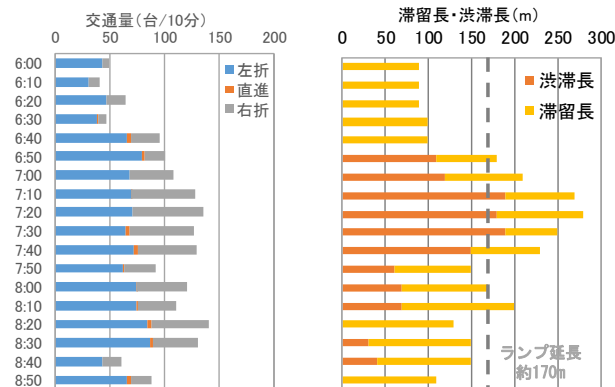
4-1 西富士道路 広見IC・富士ICの交通状況

- 西富士道路について、広見IC南進オフランプおよび富士IC南進オフランプは、滞留ランプ延長内で収束している
- 一方で、広見IC北進オフランプは、利用交通の約6割が左折する先の岳陽中東交差点から西富士道路本線まで渋滞が連続し、100m以上の本線滞留が発生していることから、今後、岳陽中東交差点も含めた渋滞の要因分析、対策の検討を進める
- 検討にあたり、岳陽中東交差点において、工業専用地域に向かう交通等により、その約7割が右折していることを踏まえる必要がある

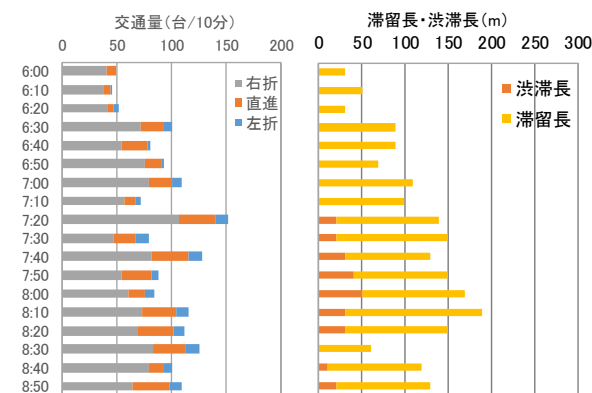
■ 広見IC・富士ICの交通状況



広見IC北進オフランプ



岳陽中東

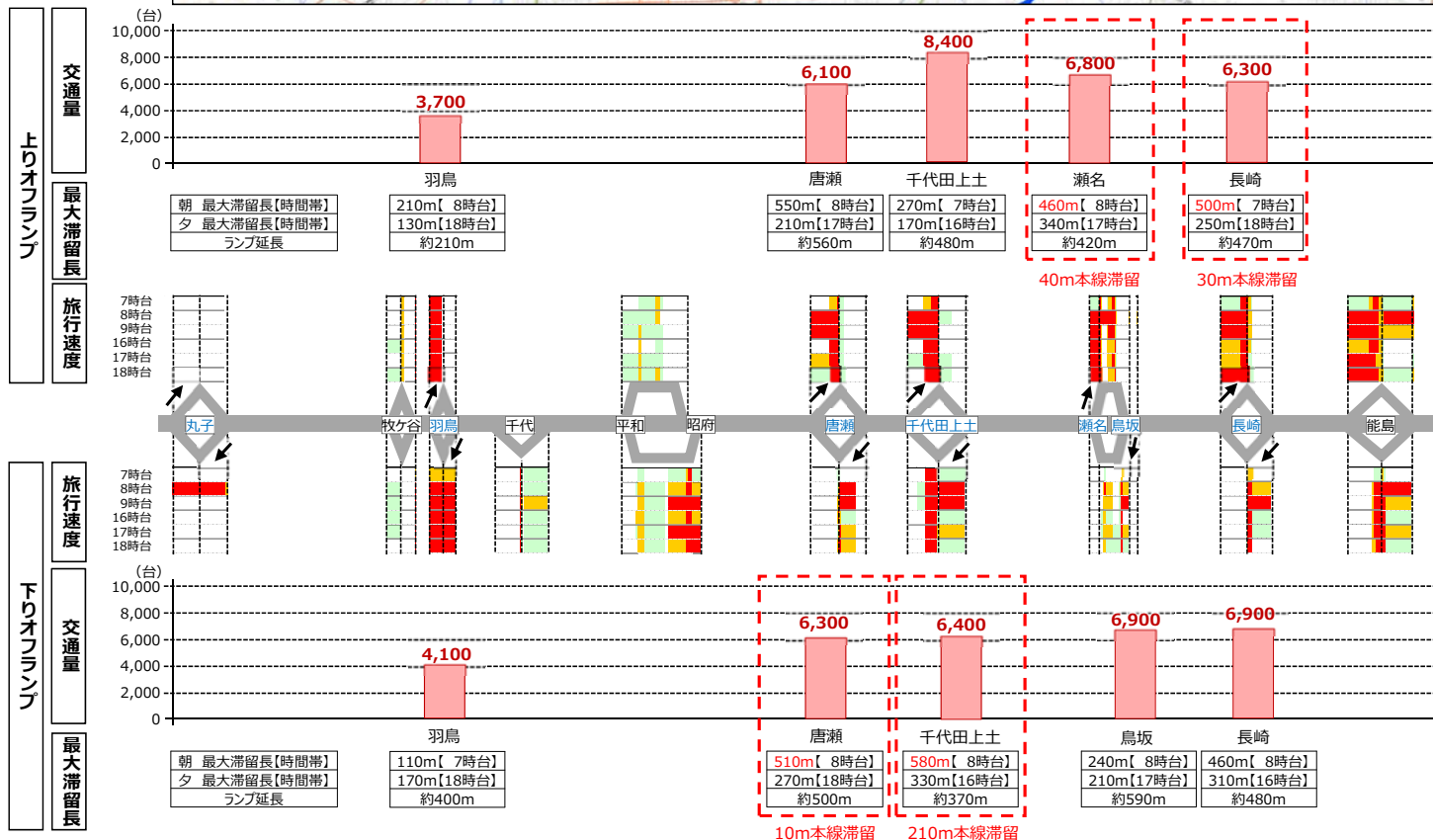


出典：交通量調査結果（広見IC・富士IC 令和元年10月24日(木)・岳陽中東 令和元年11月26日(火)）

5. 国道1号静清バイパス（実施主体:国）＜平成30年12月22日全線4車線化＞

5-1 静清バイパス IC交差点の交通状況

- 静清バイパスにおいては、IC交差点を先頭とするオフランプの本線滞留は唐瀬IC、千代田上土IC、瀬名IC、長崎ICで発生
- また、残るICにおいては、1車線のランプを2車線利用している事例が確認
- 今後、ランプの車線利用の実態や、清水立体等の将来ネットワーク整備を踏まえ、渋滞対策を検討する



＜1車線ランプを2車線利用している事例＞



【凡例】
 ■：～20km/h
 ■：20～30km/h
 ■：30～40km/h
 ■：40km/h～
 交差点名：交通量調査箇所

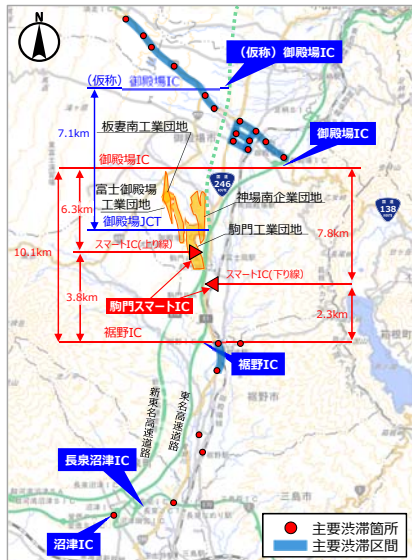
※交通量：令和元年10,11月 24h交通量調査
 ※滞留長・渋滞長：令和元年10,11月 渋滞長・滞留長調査 6～8時台、16～18時台
 ※旅行速度：ETC2.0データ（令和元年10月平日）

6. 駒門スマートICの設置[スマートIC整備] (実施主体: 御殿場市)

6-1 駒門スマートICの設置

- 東名高速道路駒門スマートICは、平成28年5月27日に新規事業化し、令和2年3月28日15時に開通
- 「工業団地直結のスマートIC」により、高速道路までのアクセス時間が短縮され、企業活動・物流の効率化が期待されるほか、内陸フロンティア推進区域に指定された「板妻南工業団地」への企業誘致促進に繋がる
- 駒門スマートIC予定地周辺の駒門工業団地における企業ヒアリング調査の結果、駒門スマートIC開通後は駒門スマートICの利用を予定されており、裾野ICの交通量が減少することが予想されるとの期待の声

■ 位置図



駒門スマートインターチェンジ上り線工事状況

アクセス道路 市道3697号線 上り線

写真 令和元年11月末現在

【進捗状況】アクセス道路完了

東名高速道路 駒門スマートインターチェンジ上り線完成予想図

用地取得率	工事着手
100%	2018年度

駒門スマートインターチェンジ下り線工事状況

アクセス道路 市道3698号線 下り線

写真 令和元年11月末現在

【進捗状況】アクセス道路完了

東名高速道路 駒門スマートインターチェンジ下り線完成予想図

用地取得率	工事着手
100%	2017年度

7. 伊豆中央道 江間交差点 立体化（実施主体：静岡県、静岡県道路公社）

7-1 伊豆中央道 江間交差点 立体化

- 東名・新東名から伊豆市までの間で唯一残る信号交差点であり、伊豆地域が観光で賑わう休日を中心に慢性的な渋滞が発生
- 東京五輪開催までの完成を目標に事業中



■ 事業概要

2020年東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が伊豆市で開催されることを踏まえ、東京五輪開催までの完成を目標とし、当該交差点の立体化及びIC設置の付替え事業に着手



■ 計画概要

有料道路名	伊豆中央道	
路線名	一般国道136号	
区間	静岡県伊豆の国市 南江間～北江間	
延長	1.05km	
本線	道路の区分	3種2級
	設計速度	60km/h
	車線数	2車線
ランプ	ランプ種別	D規格
	設計速度	30km/h
	車線数	1車線

■ 立体交差点部完成イメージ（江間いちご狩りセンター付近から）



8. 結論(案)

8-1 結論(案)

- 国道1号安新歩道橋交差点の国道1号方面レーンの2車線化については、今後、関係機関協議及び工事を進めていく
- 国道1号掛川バイパス下り線の西郷IC付近では、交通集中・加速車線長不足に起因した顕著な速度低下が発生していることから、西郷IC下りオンランプの改良を行う
- 長沼交差点は、主たる南北軸である（主）山脇大谷線との交差点として交通が集中し、東名日本平久能山スマートICの開通後、周辺の交通状況は悪化傾向にあるが、スマートICの利活用推進により更なる悪化が懸念されるため、今後、要因分析、対策の必要性・方向性の具体化を進める
- 西富士道路は、広見IC北進オフランプにおいて、利用交通の約6割が左折する先の岳陽中東交差点から本線まで渋滞が連続し、100m以上の本線滞留が発生していることから、今後、岳陽中東交差点も含めた渋滞の要因分析、対策の検討を進める
- 静清バイパスにおいては、IC交差点を先頭とするオフランプの本線滞留が唐瀬IC、千代田上土IC、瀬名IC、長崎ICで発生しているとともに、残るICにおいて1車線のランプを2車線利用している事例が確認されたことを踏まえ、今後、渋滞対策を検討する
- 駒門スマートICが令和2年3月28日に開通予定であり、これにより高速道路へのアクセス時間短縮、板妻南工業団地への企業誘致、裾野ICの交通量減少などの効果が期待されている
- 伊豆中央道江間交差点立体化が東京五輪開催までに完了予定であり、これにより伊豆地域の観光交通による渋滞の解消が期待されている